

**入院しながら学校に通える**

**摂食障害編**

# 摂食障害

三重病院では摂食障害のための入院治療を行っています。

対象となる摂食障害は「神経性やせ症」「回避制限性食物摂取症」です。

両疾患とも様々な理由から食事が摂取できなくなり、体が低栄養状態に陥る疾患です。

成長期のお子様の成長を止めてしまう可能性があるため、できるだけ早期の栄養状態の回復が必要です。

# 治療

大事なものは「安静」と「栄養摂取」です

安静によって、疲れている「からだ」を休ませます。

疲れているのは「からだ」だけではありません。

「こころ」も疲れているので、必要に応じてカウンセリングや心療科医の診察を受けてもらいます。

栄養摂取によって、体の一つ一つの細胞に栄養と潤いを与えます。

ある程度栄養状態の回復が得られたら、次は体をすこしづつ動かし始めます。

# かがやき特別支援学校に通います

栄養状態が回復したら、当院併設のかがやき特別支援学校の通学を始めます。

午前中登校、午前午後登校を行い、体を登校に慣れさせていきます。

一時的に転校は必要ですが退院時には地元の学校に必ず戻れます。



1クラスは少人数です。直接先生に質問しやすい環境です。登校ができなかった分の勉強を自分のペースで取り戻すことができます。



中学生、高校生は中間テストや期末テストもあります。緊張しますが、みんな頑張っていますよ。

# かがやき特別支援学校

入院しながら登校ができるため、  
地元の学校の授業のペースに  
大きく遅れることはありません。

授業の内容は100%同じではないので、  
学校間で連携を取っています。  
安心してくださいね。

摂食障害で悪くなった「からだ」の回復にはとても時間が必要です。

治療も大変つらいことも多いです。

摂食障害という病気と闘うために、一緒に頑張りましょう。

**摂食障害は、とてもつらい病気です**

**周囲の支えがとても大切です**

**お母さん、お父さん、おともだち、学校の先生**

**みんなに伝えたいことを、**

**入院治療を頑張ったお子様からメッセージをいただきました。**

**一部をご紹介します。**



# お友達へ

外食に誘ってくれてありがとう。うれしかった。断ってしまったけれど、、、。  
摂食障害と知られたくない気持ちはあります。知っていても今までどうりでいてください。

気分の浮き沈みがあって、  
約束している外出も難しくなることがあります。

やせてしまって、  
脳に栄養がなくて、  
何もやる気が起きなくて、  
会話もあいまいになってしまう。  
本当は明るい性格なんだよ。

長く入院していて教室に戻る時、とても緊張しているから、話しかけてほしい。





# お母さんへ

お母さんの、食べてほしい気持ちはわかります。

食べたい気持ちもあります。

でも、食べられない。

食べられないこと、食べていないことに対して怒らないでください。

焦ってしまったり、時にはイライラしてしまったり、

けんかになってしまおうと思うからです。

食べないとどうなるか、自分でもわかっています。

迷惑かけてごめんね。

妹が生まれたとき、お母さんが忙しそうで話ができなかった。

甘えたかったけど甘えられなかった。

甘えたかったけど、遠慮しているうちに気分が落ち込んでしまった。

隣に一緒にいて、応援してほしかった。

食べ物を見ることもつらかった。

# ご家族へ

ママへ

食べられなくなったら、とめてほしいって約束を守ってくれてありがとう。  
病気の気持ちが強すぎて、毎日ママにあたってしまっていてごめんなさい。  
食べているときにじろじろ見られている感じがして、いやだと感じたことがあります。  
食べられない時、「つらいよね。頑張ってるね」と寄り添ってほしかった。

パパへ

度が過ぎるくらい食べられなくなった時、  
注意してくれて、とても嫌だったけど、  
うれしかった。



# 学校の先生へ

摂食障害のことを話すのにとっても勇気が必要でした。

先生がこわく感じて気持ちと言えなくて我慢したことがありました。

給食時間、とてもつらかった。

嫌いな食べ物を給食中に減らしても、摂食障害が再発したと思わないでください（笑）。

